

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26370250

研究課題名（和文）中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究

研究課題名（英文）Synthetic research on the literature by Latin America Japanese immigration and Korean immigration

研究代表者

川村 正典（川村 湊）（KAWAMURA, Masanori）

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号：70224855

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中南米日本人移民および韓国人移民による日本語・韓国語を使用した文学作品の新たな発見と読解分析を目的とする。中南米の国々に調査に赴いた際、日本語・韓国語文学作品資料を数多く収集した。また、多く現地移民の方々や日本国内外の研究者たちとも人的繋がりを形成することが出来た。われわれ研究チームの調査が中南米各国の邦字新聞、韓国語新聞に掲載され、各移民コミュニティに広く知られることになり、資料収集や調査がスムーズに進行した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to find the literary works written by Japanese migrant and Korean migrant in Latin America. And we read them intensively. When we went to the Latin American countries for an investigation by this project, we collected a lot of Japanese literature and Korean literature documents. In addition, we got to know people of many local immigrants. And we got to know immigrant researchers in Japan. This project appeared in some Japanese newspapers and Korean newspaper of the countries which we visited. Therefore the investigation into this project was known to people of the emigrant community. As a result, document collection and an investigation went smoothly.

研究分野：文学

キーワード：日本近現代文学 移民文学 外地日本語文学 韓国系移民文学

## 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、平成23年度から平成25年度の科学研究費助成事業に採択された「南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究」の継続研究である。そのため、いまだ未調査であるラテンアメリカの国々を調査対象地とする。具体的には、メキシコ合衆国、ドミニカ共和国、ボリビア多民族国、コロンビア共和国である。各国に日本人会や県人会、日本語学校などがあり、日本人移民のコミュニティは存在している。少数ではあるが、句会や歌会といった文芸サークルも存在し、定期的に句集や歌集も刊行されている。それらの設立とその後の展開、現在の活動状況といった歴史的経緯の調査や、作品の収集を行っていく。

ラテンアメリカへの韓国人移民は1960年代からとされており、コロンビア共和国・ボゴタ、メキシコ合衆国・メキシコシティといった各都市には、日本人移民と同じように、韓国人会といった移民コミュニティが存在する。ラテンアメリカの国々の韓国人移民研究は、文学研究に限らず、様々な学問分野においても、その端緒についたばかりである。韓国語文芸同人誌もごく少数ではあるが存在しているが、移民文学研究は今のところ皆無の状態であると言ってよい。

(2)ラテンアメリカの日本人移民については、『コロンビア移住史50年の歩み』(1981・1)、『コロンビア日本人移住七十年史』(2001・3)、『サンファン日本人移住地50年史 拓けゆく友好の懸け橋汗と涙、喜びと希望の記録』(2006・3)、『サンタクルス中央日本人会創立50周年会誌 ともに50年そして未来へ』(2006・12)など、現地でまとめられた移民史が基礎研究資料となる。歴史的事実とともに、実際の日本人移民たちによって書かれた資料も収録されているためである。現地での日本語教育システムの研究や日本語習得度を調査する教育学分野、現地移民のオーラルヒストリー研究などによる社会学分野、現地語との言語接触によるクレオール性を調査する言語学分野、といった研究は、資料とデータを駆使したものであり、それぞれに研究は進められている。根川幸男『ブラジル日系移民の教育史』(みすず書房、2016・10)、柳田利夫編『ラテンアメリカの日系人国家とエスニシティ』(慶応大学出版会、2002・4)、工藤真由美・森幸一編『日系移民社会における言語接触のダイナミズム：ブラジル・ボリビアの子供移民と沖縄系移民』(大阪大学出版会、2015・8)などがそれぞれの研究分野における近年の代表的な研究成果として挙げられる。

文学研究においては、細川周平『日系ブラジル移民文学 日本語の長い旅』[歴史]、[評論](共にみすず書房、[歴史]2012・12、[評論]2013・2)が、ブラジルにおける日本

人移民社会(コロニア)で発行された俳句誌・短歌誌・詩誌・文芸誌に加え、新聞や各団体から発行された機関誌を網羅し、そこでの掲載作品を取り上げ、詳細に分析した研究書として刊行されている。これまでの日系ブラジル移民文学研究の集大成と言えるだろう。このような諸研究が、移民文学研究にも取り入れられ、先鞭をつけたことに間違いはない。本研究では、これらを先行研究とし、方法論を取り入れながら、ラテンアメリカの国々で日本人移民の作った日本語文学作品を収集し、分析していく。

(3)ラテンアメリカの韓国人移民文学研究は、前述の通り手つかずの状態といえる。資料収集を含め、本研究がその先鞭をつけることになるのは間違いなく。

本研究の研究協力者である金煥基が編纂した、『ブラジル、コリアン文学選集』、『アルゼンチン、コリアン文学選集』(ともに韓国ボゴ社、2013・8)が、南米の韓国人移民文学研究の嚆矢であり、基礎研究資料ともなっている。同様の研究方法でラテンアメリカの国々の韓国人移民文学作品を収集し、研究対象としていく。結果的には韓国現代文学のジャンルにおける移民文学の定義付けを行うことにもなる。また、ラテンアメリカの現在の文学状況を視野に入れて研究を行うことで、日韓近現代文学の歴史を照射する試みにも成り得ると考えている。

## 2. 研究の目的

本研究は、平成23年度から平成25年度の科学研究費助成事業に採択された「南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究」の継続研究として、これまでほとんど手つかずの状態であった、ラテンアメリカの日本人移民と韓国人移民による日本語文学、韓国語文学の調査研究を目的とする。日本人移民、韓国人移民たちが、それぞれの母国語である日本語、韓国語を用いて創作した文学作品を収集し、分析を行うことで、ラテンアメリカ各国における移民生活の内実と変化を、文学作品として表現されたものから明らかにすることを狙いとする。具体的には、ラテンアメリカ各国における日本人移民、韓国人移民の創作した文学作品を資料として収集し、各国の歴史や風土をどのように描いているのか、また各国の歴史や風土がそれらの文学作品にどのような影響を与えているのか、さらには作品を創作する行為自体が、移民たちにとってどのような意味を持つのかを分析し、意味づけを行っていく。そのため、各国の日本人、韓国人移民コミュニティを訪問し、創作意図など実際に話を聞く。ラテンアメリカにおける移民の歴史的変遷と、日本、韓国における移民排出の歴史を背景とし、各地域でのコミュニティによる移民どう

しの意識変化、また親子による世代間での意識の相違などを考慮しながら研究を進めていく。

### 3. 研究の方法

メキシコ合衆国、ドミニカ共和国、ボリビア多民族国、コロンビア共和国などのラテンアメリカ各国にある日本人移民、韓国人移民コミュニティを中心に現地調査に赴き、日本人移民と韓国人移民による日本語・韓国語文学作品の収集、整理、読解を行う。夏期長期休暇を利用して現地へ赴き、調査を行う。移民研究を専門に行っている日本国内の研究者や韓国国内研究者、他にも訪問国の研究機関に所属している研究者とも話し合いを行い、情報収集しながら調査研究に役立てていく。また、実作者とも面会し、作品の背景や創作動機、記憶に残っているエピソードももうかがう。日本国内に住む移民経験者にもインタビューを行い、現場の意見も取り入れながら調査研究に取り組んでいく。

### 4. 研究成果

(1) 当研究の成果として、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』(川村湊研究室、2017・5)を作成した。当研究に参加した各人の論文を掲載したものである。論文題目は、川村湊「カリブは招くよ ハボネス移民村物語」、守屋貴嗣「ボリビアの語られ方 「ボリビアのオキナワ生まれ」論」、金煥基「南米におけるコリアンディアスポラ文学の「混種性」と超国家主義 ブラジルとアルゼンチンのコリアン移民文学を中心に」、高木佳奈「日系人による日本文学のスペイン語訳 酒井和也を例に」、月野楓子「「呼寄期成同盟」の役割 在亜邦人社会における第二次世界大戦後の子弟呼び戻しと移民の再開」である。川村湊の論文は、ドミニカ共和国を主題としたものである。ダハボンの日本語小学校校歌の歌詞を導入部としながら、日本人移民が持つドミニカ共和国のイメージと、その形成に至る移民史を分析する。日本の小説家である湯浅克衛がラテンアメリカ各地を巡った際の体験を描いた著書を取り上げ、ラテンアメリカへの移民政策と満洲開拓移民政策に見られた共通点も指摘する。論者が実際に聞いた日本人移民の談話もまじえながら、実生活の描写も取り入れ、また日本語小学校の生徒の書いた作文を分析することで、子どもの視点から見た日本人移民の生活の実態、親である移民一世と子弟である二世の移民意識の相違や現地での文化接触を論じることで、文学研究の範疇にとどまらず、文化研究としての移民論となっ

ている。守屋貴嗣の論文は、木村紅美「ボリビアのオキナワ生まれ」をテキストとして、日本人が持つボリビア多民族国のイメージ形成について論じている。コロニア・オキナワで生まれ、横浜市鶴見区にあるボリビア料理店で働く登場人物が、小説ではいかに描かれているかを分析する。ボリビア多民族国の歴史と日本人移民史、そして日本の移民政策や沖縄民謡も取り上げながら、それらの要素が混ざり合い、小説の背景とされることで、どのようにイメージ形成されているかを指摘する。小説を題材としながらも、日本人が持つボリビア多民族国のイメージを浮かび上がらせている論文である。

金煥基の論文は、ラテンアメリカで刊行された韓国人移民文芸誌を詳細に分析している。特にブラジルで刊行された『熱帯文化』とアルゼンチンで刊行された『ロスアンデス文学』の二誌については、表を作成し、その特徴をまとめており、発行号数、雑誌名の変遷、発行所、掲載作品数を作品ジャンルごとにカウントしている。掲載作品の内容や編集意図から文芸誌自体の特徴も論評している。代表作品の作品分析も行っており、詩人の朴種夏(ソクソク)の作品「南米に来る機上にて」の分析は、作品を引用しながら、「祖国/故郷」を後にして海外へ向かう心境を移民の心理的変遷の表象として捉えている。「コリアンディアスポラ」と「混種のグローカリゼーション」をキーワードとして作品分析を行うことで、ラテンアメリカの韓国語移民文学に限定されることなく、移民文学のもつ普遍性を論じている。

高木佳奈の論文は、アルゼンチンの「日系二世」酒井和也による日本文学作品のスペイン語訳について論じている。酒井和也は芥川龍之介「歯車」や安部公房「砂の女」といった日本近代文学作品だけではなく、「方丈記」「枕草子」「源氏物語」「雨月物語」といった日本古典文学作品のスペイン語翻訳も行った人物であり、アルゼンチンやその他のスペイン語圏に数多くの日本文学作品を紹介した功績は大きい。また、画家でもあったため、酒井和也の活動は多岐にわたっている。画業やその他の活動にも言及しつつ、ラテンアメリカにおける日本文化の普及に多大な貢献をした酒井和也の活動を文化研究として論じている。

月野楓子の論文は、アルゼンチンにおける第二次大戦後の子弟呼び戻し組織「呼寄期成同盟」についての研究である。「呼寄期成同盟」は、戦後の混乱のなかにある日本および沖縄県からアルゼンチンへ、戦争をはさんで離れ離れになった親子を再会させただけでなく、新規の呼び寄せ移民に門戸を開くことで、戦後移住の先鞭をつける役割をした。また、ペロン大統領就任後の政権下において、在アルゼンチン日本人社会として初めてアルゼンチン国内の政治と直接かかわりを持つ活動

を行った組織であった。「呼寄期成同盟」の活動を中心に据えながら、アルゼンチンの歴史と日本の移民史を接続することで、新たな歴史問題への問いかけを行う論文となっている。

上記の論文の掲載に加え、当研究での調査地と訪問年月を一覧表示し、訪問時に撮影した写真も収録し、報告書としてまとめたものである。

(2) 当研究において調査を行った、ドミニカ共和国・ダハボン、ボリビア多民族国・コロニア・サンファン、コロンビア共和国・カリにおいて、現地日本人コミュニティの発行する日本語タウン誌、さらにコロンビア共和国・ボゴタで発行されている韓国語コミュニティ誌にわれわれの調査活動が掲載され、紹介された。そのため、現地移民の方々に広く周知され、資料収集や現地インタビューをスムーズに行うことが出来た。移民のオーラルヒストリー研究としても十分に資料価値を見出す事が出来ると考える。

(3) 韓国・ソウルの東国大学校にて開催された、日本学研究所主催の国際シンポジウム「中南米における日系移民文学の形成と展開」(2016・8・12開催)に参加し、当研究の成果の一部として発表を行った。発表題目は、守屋貴嗣「日系移民文学(日本語文学)の形成と展開」、高木佳奈「日系移民による文学作品の翻訳 帰国二世、酒井和也の場合」である。

守屋貴嗣の発表は、ハワイや東南アジア、南米を含めた、日本人移民送出の歴史と、それぞれの現地での文学の歴史的な展開と研究史をまとめ、それぞれに見られる共通点を総論的に指摘したものである。

高木佳奈の発表は、アルゼンチンの「日系二世」酒井和也による日本文学作品のスペイン語訳を取り上げ、スペイン語訳に対する酒井の文学意識を分析した内容であった。また、発表者が入手した新資料の提出もあった。

文学研究者に限らず、様々な分野の研究者から多くの質問が寄せられた。また、韓国における日本研究の立場から、日本の移民研究の現状と韓国の移民研究の現状との比較や問題点、研究手法についての意見も数多く提出された。また、新たな文学研究のジャンルとして認知されたと考える。

研究代表者の川村湊は、当研究のこれまでの調査結果を踏まえ、総論を発表した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

守屋貴嗣「アルゼンチン日本語文芸論 『あるぜんちん日本文藝』について」『異

文化』14号、2014、pp59~90、査読有

〔学会発表〕(計2件)

守屋貴嗣「日系移民文学(日本語文学)の形成と展開」、国際シンポジウム「中南米における日系移民文学の形成と展開」、東国大学校日本学研究所(韓国・ソウル) 2016・8・12

高木佳奈「日系移民による文学作品の翻訳 帰国二世、酒井和也の場合」、国際シンポジウム「中南米における日系移民文学の形成と展開」、東国大学校日本学研究所(韓国・ソウル) 2016・8・12

〔図書〕(計6件)

川村湊「カリブは招くよ ハポネス移民村物語」、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』法政大学国際文化学部川村湊研究室、川村湊・守屋貴嗣編、2017、pp35~52

守屋貴嗣「ボリビアの語られ方 『ボリビアのオキナワ生まれ』論」、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』法政大学国際文化学部川村湊研究室、川村湊・守屋貴嗣編、2017、pp18~24

金煥基「南米におけるコリアンディアスポラ文学の『混種性』と超国家主義 ブラジルとアルゼンチンのコリアン移民文学を中心に」、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』法政大学国際文化学部川村湊研究室、川村湊・守屋貴嗣編、2017、pp2~17

高木佳奈「日系人による日本文学のスペイン語訳 酒井和也を例に」、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』法政大学国際文化学部川村湊研究室、川村湊・守屋貴嗣編、2017、pp25~34

月野楓子「『呼寄期成同盟』の役割 在亜邦人社会における第二次世界大戦後の子弟呼び戻しと移民の再開」、『中南米日系移民および韓国系移民による文学に関する総合的研究 報告書』法政大学国際文化学部川村湊研究室、川村湊・守屋貴嗣編、2017、pp53~62

守屋貴嗣「『あるぜんちん日本文藝』を中心に 崎原風子論として」、『日系文化を編み直す 歴史・文芸・接触』細川周平編、ミネルヴァ書房、2017、pp233~253

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕（計1件）

インタビュー

川村 遼、守屋 貴嗣「細川周平氏インタビュー・[特集]ラテンアメリカの移民文化を語る」『インターカルチュラル』日本国際文化学会、2014、pp2～26

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

川村 正典 (KAWAMURA, Masanori)  
法政大学・国際文化学部・教授  
研究者番号：70224855

### (2) 研究分担者

守屋 貴嗣 (MORIYA, Takashi)  
法政大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：60597813

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

金 煥基 (KIM, Hwan-gi)  
東国大学校 (韓国・ソウル)・日語日文学科・教授

高木 佳奈 (TAKAKI, Kana)  
東京外国語大学大学院・総合国際学研究科・博士後期課程

月野 楓子 (TSUKINO, Fuko)  
法政大学・国際文化学部・講師